



公益社団法人 日本山岳会

宮崎支部報

第89号



第38回 宮崎ウエストン祭 11月3日(月)

多田 登美子

9時、ヤマダ電器の駐車場を車4台で出発する。10号線を走り、門川から有料道に入る。「道の駅よつちみろ屋」で本日の昼食、明日の朝・昼の食料を各々調達し、駐車場の東屋で昼食をとる。13時40分、宿泊所の五ヶ所公民館ひめゆりセンターに到着。式典会場五ヶ所高原三秀台までは徒歩で20分位だ。式の受付は15時30分なので、支部懇親会の準備をする。参加者は本部の柏澄子副会長、北九州支部2名・東九州支部8名・熊本支部5名・宮崎支部19名の合計35名。

三秀台の紅葉は未だで残念だったが、ウメバチソウやヤマラッキョウなど小さな花々を見ることが出来た。最高の天気で空気も澄んでいる。阿蘇根子岳、久住連山、祖母山がくっきりと見え、近くの赤川浦岳・筒ヶ岳もすっかり目に入った。

式典は地元児童の点鐘で始まりウエストン碑に花束を献げ、甲斐高千穂町長、当支部日高支部長、来賓の本願高千穂町議会議員、柏副会長の挨拶が行われた。柏副会長は三秀台の訪問は二度目で、初めて高い洋鐘塔を見たときの感動、ウエストン祭を続けることの意義などを話された。「ウエストン師に捧ぐ」詩の朗読を蔵屋会員が行い、栗林会員の指揮でウエストン祭の歌

を参加者全員で合唱、児童へ記念品贈呈、大空に全員でバンザイを叫んで式典を終了した。

今年からウエストン祭の記念バッチが有料配布となった。長きにわたり無料で配布していただいたことに深い感謝を申し上げたい。それでも多くの方が買求めているのは祭りの精神や参加の証として金額以上のものだと思っているのではないだろうか。大切にしたいと思う。

地元との交流会

式典終了後、17時半から場所を地元の野菜集出荷場に移し地元の人々との交流会が開かれた。祖母嶽神社の宮司による、安全祈願の神事と神楽の奉納。交流会の主催者である田原地区村おこし推進協議会の会長挨拶等の後、ステージで主婦グループの踊り、合唱、本陣太鼓、熊本支部の中村会員のギター弾き語り等、又例年だと地元の新婚さんによるキャンプファイヤーへの点火式であるが、今年は結婚53年目の宮崎支部の服部夫妻が神代風の衣装で登場し大いに盛り上がった。その後地元の振る舞い焼酎、地元婦人会の心温まるうどん、ぜんざい等をいただき20時30分に終了した。主催して戴いた田原地区の方々に心から感謝申し上げたい。



地元児童による点鐘



献花



高千穂町長 甲斐宗之氏



宮崎支部長 日高研二氏



高千穂町議会議長
本願和茂氏



本部副会長 柏澄子氏



詩朗読 蔵屋会員



指揮 栗林会員



万歳三唱 田上公民館館長



祖母山をバックに三秀台にて 九州各支部の皆さん



支部会員 服部夫妻によるキャンプファイヤー点火



ひめゆりセンターにて交流会の最後に参加者全員で
坊がつる讃歌を熱唱しお開きとなる

九州各支部との交流会

地元との交流会終了後「ひめゆりセンター」で参加支部の懇親会が行われた。活発な意見が交わされその中で東九州支部の女性が女子部を作って女子だけの活動を始めた事の報告があり、由布岳を多方面から探索している等の楽しい話もあった。「坊がつる讃歌」を全員で合唱、来年の再会を期して終了となった。

<参加者19名> 日本山岳会副会長 柏澄子・清家順子・多田登美子・服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・蔵屋とよ・柏田英子・児玉暁子・荒武八起・日高研二・武田芳雄・服部岩男・平田五男・山上章二・会員外4名<北九州支部2名><東九州支部8名><熊本支部5名>

【ウエストン祭記念山行】 祖母山 11月4日(火)

蔵屋 とよ

11月初めの五ヶ瀬の朝は冷え込み気温5度、車のフロントガラスは霜で凍っていた。前日のウエストン祭の余韻もさめないまま、朝7時にひめゆりセンターを出発し登山口へ向かう。日本百名山で宮崎県の最高峰、祖母山は例年この時期紅葉のシーズンでもあり九州各地からの登山客も多い。この日は幸い連休明けの平日で辛うじて4台の車も駐車場に収まった。今回は日本山岳会副会長の柏澄子氏と北九州支部事務局長の清家幸三氏の参加もあり、8時15分北谷登山口から先発隊8名が出発、間もなく後発隊(ショートコース)7名も同じルートを出発する。

スギやヒノキの植林地を緩やかに進む。このコースは徐々に体を慣らせると感じながらも2合目を過ぎると傾斜も増してくる。4合目を過ぎ千間平の標柱、9時25分展望台。その後三県境を超え7合目を過ぎ10時25分国見峠で一息つく。あいにくのガスで隙間から見える麓の景色も曇り空にて霞んでいる。

前夜に田原地区村おこし推進協議会会長のお話があったように、今期は夏から秋を通り越し急激に気温が下がったことで山の木々は紅葉しないまま枯れ落ちてしまう状況にあるようだ。それでも標高が上がるにつれ見下ろす山々は緑、黄色、橙が混ざっており晴天であれば、このパッチワークの景色が見事だろうと想像できる。8合目を過ぎると傾斜の岩場、9合目の分岐で山小屋には寄らず山頂を目指し11時25分山頂到着。すでに10人余りの先着者が休憩中、中には名古屋の山岳会といわれるグループもあった。山頂から障子尾根や傾山への

山並みは見られなかったが時折抜けるガスの隙間の景色を楽しみ、遅咲きのリンドウに癒された。

1時間の休憩後12時25分風穴コースに向けて下山開始。ぬかるみや岩場を下りハシゴやロープを頼りに慎重に足を進める。岩場を抜けると赤く染まったモミジや橙色のカエデに和みながら、14時頃に巨岩、風穴にたどり着く。時間も気になりつつ紅葉を楽しみつつ折りの植林地を抜け、いくつかの沢を渡り15時5分北谷登山口に到着。ショートコースの7名と合流し、ひめゆりセンターへ。ここで柏副会長と清家氏を見送り、掃除を済ませ16時25分帰途につく。

〈参加者8名〉柏澄子(日本山岳会副会長)・清家幸三(北九州支部)・栗林淳子・橋口三枝子・蔵屋とよ・日高研二・武田芳雄・山上章二
 〈コースタイム〉ひめゆりセンター7:10～祖母山北谷登山口8:05～国観峠10:25～祖母山山頂11:25昼食12:25～風穴13:56～北谷登山口15:05～ひめゆりセンター15:40/16:25～道の駅よちみろ屋17:20～道の駅川南～ヤマダ電機19:25



祖母山山頂からの山並みはあいにくのガスの中

【ウエストン祭記念山行】 祖母山(展望所まで) 11月4日 児玉 暁子

森の散策以外の山行きはしない!と決めていた私であったが、皆様の励ましと少々のだまし?で、Bコース7名の班に入れていただいた。

北谷登山口を出発。本当に久しぶりに山の空気や植物、景色、それに山を愛する方々の人間性の素晴らしさに囲まれ、長年、山や森に浸ってきた感覚がよみがえった。とても満足で幸せな自分がそこにいた。

一目森に焦点を当てて観ると、知る範囲の九州山地の森は、美しいけれど、植生が異常で、下層植生は皆無に近く草本類も極僅か、本来ならば階層構造で出来ているはずの森が地表は落ち葉のみ、鹿の生息域であることを物語っている。このままだと幼樹の成長は皆無で、高木の寿命と共に森は消滅してしまう事実を危惧している。

山を愛する皆で何とか対策と、それを実行に移せる方

法はないのか真剣に考え、豊かな森に再生できることを願っている。

〈参加者7名〉清家順子・多田登美子・服部澄子・柏田英子・児玉暁子・荒武八起・服部岩男



令和7年度 日本山岳会九州五支部懇談会 9月20・21日(土・日)

荒武 八起

九州五支部懇談会は、各支部持ち回り形式で行われている。前回は一昨年に大分支部主管で九重山・法華院温泉山荘で行われた。そして、今回は熊本支部の担当で阿蘇草原保全センター、阿蘇プラザホテルで開催された。参加者は約50名で宮崎支部からは6名が出席した。

一日目 9月20日(土)

車2台に分乗し、宮崎を7時に出発。道の駅「つの」、道の駅「北方よつちみろ屋」で小休止した。高森峠を越え根子岳が正面に見える絶景地「月廻り公園」で昼食をとった後、会場となる阿蘇草原保全センターに13時前に着いた。13時半から今回のテーマである「古道調査報告会」が開催され各支部から30分ずつの発表があった。各支部の発表者は1名ずつであったが、宮崎支部は荒武が前置きをした後、飢肥街道・川越会員、薩摩街道高岡筋・日高会員、霧立越・橋口会員が分担して報告した。報告会を終え、宿泊と懇談会の会場となる阿蘇プラザホテルに移動した。割り当てられた部屋からは、あいにくの霧で全容は見えなかったが、阿蘇五岳が正面に横たわっていた。



阿蘇草原保全センターにて 古道調査の発表会

18時からの懇談会では、まず各支部の活動報告が行われ、宮崎支部は支部長・日高会員が簡潔明瞭に現況を報告した。乾杯の後、和やかな雰囲気の中で懇談会は進行した。各支部から提供された酒をいただき、会場全体に酔いがまわってきたところで、東九州支部全員による「坊がつる讃歌」の合唱が始まった。配布された歌詞

の中に「思い出のスカイライン」も印刷してあった。熊本支部の粋な計らいに感銘を受けつつ宮崎支部全員でマイクの前に立ち大声で歌い上げた。懇談会は20時に打ち上げられ希望者は二次会へと移動した。

二日目 9月21日(日)

薄曇りであるが雨の心配はなさそうだ。記念登山組と観光組に分かれての行動となった。登山組は観光道路の大曲付近に車を置き、馬の背ルートに入った。ススキや萩、そしてミヤマキリシマの中をゆっくりと高度を上げた。後で観光組に参加された川越会員から聞いた話では草千里、阿蘇火山博物館、阿蘇中岳火口の他に夏目漱石の句碑も廻られたそうである。その句碑の一つに「行けど萩行けど薄の原廣し」とあったらしいが、一面のススキの原に花の盛りはやや過ぎていたが萩が風になびいている様はまさしく漱石の句の通りであった。秋風の中を阿蘇の山々の山腹をトラバースしながら、北外輪山や九重の山並み、そして放牧された牛を見ながらの約4時間の散策は誠に爽やかで心満たされる時間となった。13時過ぎに川越会員と阿蘇プラザホテルで合流し宮崎へ18時頃に着いた。往復8時間もの長時間・長距離を運転して頂いた川越会員・日高会員に感謝しつつ山旅を終えた。

<参加者6名>服部澄子・橋口三枝子・荒武八起・日高研二・服部岩男・川越正則

<コースタイム>20日ヤマダ電機7:00～道の駅「北方よつちみろ屋」9:20～月廻り公園10:50昼食11:20～保全草原センター12:10古道調査発表13:30～16:40～阿蘇プラザホテル16:50

21日阿蘇プラザホテル7:30～阿蘇大曲付近登山口8:00～折り返し10:40～登山口13:00～阿蘇プラザホテル13:25/13:40～道の駅「北方よつちみろ屋」～ヤマダ電機17:50



阿蘇の草原の中、九州5支部の皆さんと

[9月定例山行]百貫山(693m) 9月13日(土)

前原 満之

宮崎市内は晴天であったが、えびの市に向かうと山には雲がかかり、天気は怪しくなる。えびの市京町から矢岳高原への登りでは雨脚が激しくなる。展望所からの絶景は見えないが、野口雨情の歌碑が雨にふさわしい。「雨のしらせか霧島山に雲がまたきてまたかかる」。キャンプ場を左に見て駐車場着。カイズカイブキの古木があり、牧場跡かと思われる。雨具を装着するも、ありがたいことに出発して程なく雨が止んだ。持参の造林鎌で草を切り開きながら進むと15分程で森に入る。草と言っても実はワラビが一杯。時期が来たら立派なワラビが取れそうである。タブやイスノキの大木等の林立する広葉樹の中を進む。歩きやすいがテープに沿わないと迷いそうである。電話線の下を通過すると、程なく百貫山の名前の由来となったと思われる大岩が見えてきた。百貫といえは375kg。それよりはるかに重いと思われる岩から10分程で山頂に着いた。

全体の見晴らしはきかないが、下に送電線が見え、東方向には高速道も海上自衛隊超長波施設も見える。山行としては、今回、登りらしい登りもなく、時間もかからない登山であったが、山行計画にあたっては、武田さんには大変なご苦勞をおかけした。登山口の特定、さらには森に入ってから山頂へのルート探し、いずれも大変だったと思う。感謝にたえない。下山後、矢岳高原ベルトンオートキャンプ場に寄り、矢岳高原を下って途中、鉄道ファンの選ぶ日本3大車窓を眺める。多田夫妻と合流し、木崎原古戦場跡等見学し、帰路に着いた。

<参加者12名> 清家順子・服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・蔵屋とよ・前原満之・日高研二・武田芳雄・服部岩男・栗林忠信・※登山口まで多田周廣・多田登美子

<コースタイム> 8:15大淀川河川敷駐車場～矢岳高原着10:30～駐車場発11:12～山頂着11:50～昼食/12:24～駐車場着12:49～矢岳高原発13:35～木崎原古戦場跡等見学～16:40～大淀川河川敷駐車場



駐車場と山頂の標高差は余りなく、心地よい樹林を歩く



山頂には看板は無く、ラミネートされた札が下がっていた



えびの市湯田からの百貫山 切り開かれた送電線沿いにも登れる

[10月定例山行]飯盛山 10月26日(日)

武田 芳雄

当初の計画は烏帽子岳だった。新燃岳の噴火警戒レベル範囲からは離れているが、より安全を考慮し飯盛山に変更した。なお烏帽子岳は、下見を何度も繰り返し準備をしたが、雨で中止となっている。飯盛山も同じく、雨で中止となった山である。

天気が気になっていたが崩れることはないよう決行する。会員の鹿児島県の友達と湧水町の寺で合流した。林道横に駐車し陸上自衛隊霧島演習場ゲート前より登山開始。はっきりとした登山道はないが、先人がつけたテープを目印に歩く。二つのルートがあるようだが手前のルート歩く。直登で勾配が急なのできつそうな人が出る。その後は直接向かうのではなく、歩きやすそうなところをジグザグに進むようにした。カヤの中の山頂三角点に到着。山頂は噴火口跡の窪地になっておりカヤや小木が数本ある。視界が開けた場所からは甕岳、白鳥山が見えた。林の中で昼食をとり、下山する。一日を通じて天気の崩れはなく、無事に山行を終えた。



陸上自衛隊霧島演習場から見る飯盛山

<参加者7名> 清家順子・服部澄子・前原満之・武田芳雄・服部岩男・山上章二:会員外1名

<コースタイム> 大淀川河川敷07:10～ゆーばるのじり07:50～湧水町セブン09:10～09:10林道横10:10～飯盛山山頂11:40～昼食～12:30出発～14:55林道横14:05～ゆーばるのじり16:00～大淀川河川敷17:00



飯盛山山頂

第38回全国支部懇談会・関西 9月26・27(日・月)

栗林 淳子

第38回全国支部懇談会が関西支部設立90周年記念式典と併せて、関西支部主管で新大阪の大阪ガーデンパレスで開催された。橋本会長、3名の副会長はじめ全国25支部、150名が一堂に会し、宮崎支部からは橋口、栗林2名が参加した。

関西支部は日本山岳会最初の支部として1935年9月設立され、現在280人の会員を有するという。正装された関西支部の方々の受付でもらった袋には、開催のしおりとともに関西支部発刊の関西支部県境縦走踏査報告書と関西登山史の立派な本が入っており、改めて90周年の重みを感じた。14時30分、水谷透関西支部長の挨拶から式典が始まり、橋本しをり日本山岳会会長の挨拶、来賓祝辞の後、2時間余り重廣恒夫関西支部会員による記念講演「ヒマラヤ今昔」があった。重廣氏は1947年生まれ、中学時代から岩登りを始め、1973年エベレスト南西壁登山隊に参加以後日本のヒマラヤ登山の第一人者として活躍、日本山岳会副会長、関西支部長を歴任されている。映像と講演冊子で自身の登山を振り返るとともに日本人のヒマラヤ登山の変遷を熱く語られた。

18時30分から8人がけテーブルが18並ぶホールに移動し主催者挨拶の後、柏澄子副会長の乾杯の音頭で懇親会が始まり、参加支部の紹介と支部代表者の挨拶が北から順番に行われた。どれも高齢化と会員減少が悩みだが、中には会員増加に転じている支部の報告もあった。旧交を温め情報交換などに加え各地の地酒で和やかな雰囲気では進んだ。橋口事務局長は橋本会長や本部役員の方々と話もでき、またウェストン祭、祖母登山に参加される柏澄子副会長ともご挨拶できお人柄に触れることができて良かった。

27日(月) 箕面大滝～勝尾寺

27日は記念山行(箕面大滝～勝尾寺)に参加。健康情報・緊急連絡カードと引き換えにお弁当をもらい、10人ずつ9班に分かれ観光組とともにバス2台で「日本の滝百選」「日本百景」にも選ばれている落差33メートルの名瀑箕面大滝に向け出発。

駐車場から一目千本のモミジの木立の急坂を下りと目の前に滝壺と滝が現れた。大阪梅田駅から電車と徒歩で1時間半弱で来ることができることから紅葉の頃はたいそうな人出だという。滝を背に全員で集合写真を撮り、班ごとに出発。滝から急坂を登り返して登山道に入り、階段や急登を登り大阪市内方面の展望が開ける雲隣展望台で小休止の後、東京の高尾山へ続く東海自然歩道の起点へ。そこから東海自然歩道をアップダウンを繰り返して最勝ヶ峰頂上(540m)にある開成皇子墓で昼食を摂った。開成皇子は光仁天皇の皇子で、お墓は鎌倉時代末期に作られ現在は宮内庁が管理しているという。しばし休憩の後、東海自然歩道から分かれ目的地「勝ちダルマ」で有名な勝尾寺へ下る。6キロ、高度差300m約4時間の行程だった。

一緒に歩いたE班リーダー寺田様、関西支部や神奈川支部の皆様ありがとうございました。また支部懇談会の準備運営をされました関西支部の皆様にご感謝申し上げます。

<参加者2名>栗林淳子・橋口三枝子

<コースタイム>ガーデンパレス発8:30～箕面大滝9:40～展望台10:15～開成皇子の墓11:55昼食12:20～勝尾寺12:40/14:00～新大阪14:55



日本の滝100選・日本百景の箕面大滝

山の日登山(振替) 家一郷山 11月23日(日)

橋口 三枝子

第9回「山の日」記念事業として家一郷山登山が市山岳協会主催で行われた。山の日8月11日だが最近猛暑のため体調に考慮して11月23日に行われている。約50名の参加。

旧家一郷小学校跡に車を置き5分程歩いた登山口にて開始式が行われた。会長の挨拶ならび事務局から双石山山小屋募金のお礼と山小屋修復が終了した報告があった。ラジオ体操で体をほぐし、3班に分かれ自然観察歩道西口からスタート。

ここ家一郷山は宮崎自然休養林となっていて整備が行われておりポイントには森の説明をする案内板が立ててある。多くの樹木には名前を書いた標識も沢山あり「学び森」となっている。標高は437mと低い山だが登り始めはジグザグの急登が続く照葉樹林の中、見事な大木も多く、パワーをもらいながら30分程登ると展望所に着く。小春日和の中、目の前に双石山や鰐塚山などの眺望を満喫し山頂へ向かう。赤い卵型のツチトリモチがあちこちに見られる。ちなみにツチトリモチは照葉樹林のハイノキ類の根に寄生するという。この山は距離は短いがその分直登となっていて見上げる先は結構な急坂が続く、ロープや木を掴みながら慎重に登り山頂に着く。切り開かれた山頂からは市街地、日向灘から双石山、

花切山などの山を見渡すことができ素晴らしい。下山は展望所まで戻り、そこで昼食をとり東口登山口へとコースを周回する。緑のシャワーを浴びながら歩く途中に大、小の石が混じった岩に「自然が作った岩屏風」と名付けられている。見応え十分だ。観察歩道東口から溪谷の林道を歩き西口登山口に着く。そこでは温かいぜんざいの振る舞いが嬉しく、大変美味しかった。

<参加者14名> 服部澄子・橋口三枝子・白賀智子・前原満之・日高研二・武田芳雄・服部岩男・川越正則・会員外・6名

<コースタイム> 自然観察道西口9:20～展望所9:50～山頂10:45～展望所11:40/12:05～東口登山口12:40～登山口12:55



家一郷山山頂 山並みが素晴らしい



第31回 中央公民館まつり

橋口 三枝子

11月29日(土)～30日(日)中央公民館まつりが開催された。公民館利用の自主グループ及び登録団体が日頃の成果を発表する機会となっている。29日は会場設営から行う。公民館職員の指導のもと手際よく進められ各団体の展示を行い開始となる。

絵画・写真・書道などの展示、似顔絵・絵手紙・親子勾玉作りなどの体験コーナー、コーラスの発表と多くの参加である。体験コーナーではごみに関するクイズでエコプラザ(ごみ処理施設)では1年間に137回の火災が発生していることは驚きだった。その6割がリチウムイオン電池の原因と聞

く。血管年齢では10歳若い結果に喜ぶ声、似顔絵も見事な出来栄にニコニコ、スタンプラリーも好評だった。

当支部は年間の行事を8枚のパネルにまとめ展示した。



【自然保護委員会】

小谷登山口草刈り作業 10月18日(土)

前原 満之

当初予定の11日は、ときめき家族登山in釈迦ヶ岳とダブったため不参加の予定であったが、家族登山が天候不良で中止となり、本行事は1週間延期となったため参加できた。

朝は天候が危惧され30分程遅れて始まった。登山道を上っていくとヤマボウシの実が赤く熟れ、口に入れると甘い。作業前の話で、山小屋の荷物運びで高校生たちが活躍してくれたとのこと。近く高校総体もあるのでお礼の意味も込め、登山道をきれいにしたいとの話もあり、多くの人が登山道脇の草刈りを行っていた。山の中は茂っており、入るのはためらいもあるのだろう。しかし入っていくとツルに絡まれたり、自生木に覆われ助け出したい苗木が沢山ある。また大きくなって欲しい自生木も多い。特に、ツルに巻かれると苗木が抑え込まれるので何としても救いたい。一人で救える苗木は限られているので、一人でも多くの人に山に分け入ってほしいと思う。少しづつでも切り開いていくと奥に入っていけるのだが・・・。

最近、国道等の道路沿いで、クズに巻きつかれた樹木が多いのをよく見かける。幸い、小谷登山口の山にはまだ進出してきていないようであるが、これがはびこると樹木を沢山の大きな葉で覆ってしまい厄介である。ま

たこのクズを根絶するのは大変な労力を必要とする。何とか侵入を防ぎ、もし入ってきた場合は皆で協力し、早い内に退治しなければと思う。

10時半には降りて来てとの事だったが、約1時間半で作業を終えた。皆さんお疲れ様でした。

<参加者30名>(当支部8名)谷口敏子・橋口三枝子・前原満之・荒武八起・日高研二・谷口菊美・武田芳雄・服部岩男・川越政則



お分かりだろうか 空に突き出ている枝がツルに巻かれ全く見えず、抑え込まれていたケヤキ 下は巻いていた大きなツルを造林鎌で持ち上げているところ



清掃登山・小谷登山口周辺清掃作業&双石山登山 12月6日(土)

前原 満之

【清掃作業】8時～10時10分(2時間10分)

今回の作業は、小谷登山口から約1200m先の「管理番号7」と、約1700m先の「管理番号8」(電柱番号赤木分41～43と赤木分56～58)を主に実施し、7地点を市山岳協会。8地点を当支部で分担し行うこととした。その後3～6地点の清掃も行った。今回、受付を昨年と同じ「管理番号4」としたため、小谷登山口に「受付は500m先です。清掃場所はもっと先です」の看板を立て現地に各管理番号も設置した。軽トラについては事前に荒武会員に手配をお願いしていたため助かった。フレコンバッグ(集草袋)は、今年も前原が準備した。回収したゴミは、71袋(可燃ゴミ48. 不燃ゴミ23)と、袋に入らないタイヤ11本、カーペット、毛布、エアコン、テレビ等である。昨年よりゴミの量が多く、全体の参加者が少なかったため時間は昨年より長かった。現場に置いた環境美化ボランティア袋は後日、市環境業務課にて回収してもらい、袋に入らない不燃ゴミは県土木事務所に「クリーンロードみやざき推進事業」として回収してもらった。

【登山】

今年も、清掃作業だけでなく登山も確実に実施しようと呼び掛けたが、作業に時間がかかったこともあり、参加者は2名であった。武田会員は三段梯子方面への分岐まで、栗林会員は天狗岩まで登られた。栗林会員は自分の名札の下がった木に絡まったツルを切ったとのこと。剪定バサミも購入したので、今後は他の木のツル切りもしたいとの前向きなありがたい言葉をいただいた。

清掃作業参加者18名(当支部11名)多田登美子・服部澄子・栗林淳子・蔵屋とよ・前原満之・荒武八起・武田芳雄・多田周廣・櫻木勉・服部岩男・山上章二



🦉 エッセイ

里山の思い出

末永 軍朗

山名の由来はよく判らないが、郷里の都城市高城町有水に「かくら山」という標高350mほどの里山がある。その山は、有水の中心街の南側に横たわり、子供のころ小中学校の登下校には毎日見上げてきた山で、山の頂上には、立ち枯れた一本の大きな松の木があり、遠くからでもよく見ることができた。

「かくら山」の登山口は、国道10号線を宮崎方面から都城方面に向かうと、有水中心街を通り過ぎたところ到大淀川の支流有水川にかかる萬年橋という橋があり、そこを少し都城に向かった道路左側沿いにあった。

登り口の始まりは、ややきつい登り坂だが、次第になだらかな曲がりくねった山道が山頂まで続き、子供の足でも4～50分ほどで登り着くことができた。

山は実家のほど近くにあり登り易い山なので、学校の休みの日や夏休み時などには、近所の4～5人の悪ガキと誰かれともなく誘い合ってよくその山に登って遊んだものであった。

山の頂上はちょっとした空き地があり、そこから有水の街並みを眺めると、郵便局、小・中学校の校舎・運動場お寺、商店街などが一望に見渡すことができた。それはまるでテレビの風土記の画像か映画の田舎のワンシーンのような、美しく素晴らしい風景を見ることができた。

また、「かくら」山は、すそ野が広がり、こんもりとした落

ち着いた山容で北側斜面には、カシ、シイ、タブ、クヌギなどの常緑広葉樹が生い茂り、南側一帯は杉・檜などの人口林になっていた。

私たちの子供のころは、テレビやパソコン、ゲーム機などない時代だったので、もっぱら家周りでの遊びといえば、駒回し、竹馬、パッチン、ビー玉遊び又は、川での水浴び、魚釣りなどが主流で、山野では、メジロ捕り、コジの実拾い、あけび、キノコ採りなど、四季折々に自然の恵みを求めて、自由に飛び回り楽しむことができたので、遊ぶことには事欠なかった。

時折郷里に墓参りなどで帰省すると、子供のころ楽しく遊んだ思い出の里山「かくら山」が真っ先に出迎えてくれるのは嬉しい。その山も子供のころと変わったことといえば、山のシンボリック的存在であった一本松の太木は、何時朽ち果ててしまったのか、今は見ることはできないのは寂しく思われる。

しかし今でも懐かしき故郷の思い出の山「かくら山」に出会うと、高校生のころ愛読した石川啄木の詩集の中から好きだった「故郷の山に向かいて言うことなし 故郷の山はありがたきかな」という短歌を思い出す。

きっと、啄木も出身地の岩手県渋民村から郷里の里山を見上げて、同じような感慨と郷愁を感じたのかも知れない。

創立120周年記念式典・記念晩餐会 令和7年12月6日(土)

日高 研二

日本山岳会は、1905年(明治38年)10月14日国内初の山岳クラブとして設立。今年で120周年を迎えることとなり、それを記念して、京王プラザホテルにおいて、天皇陛下にもご臨席賜り、記念式典・記念晩餐会が開催され、当支部から3名出席した。

1 記念式典

本館4階 花において 16時30分開会。橋本会長挨拶、物故者・戦後80周年戦没者への黙祷、日本山岳会百二十年の歩み、120周年記念プロジェクト紹介、来賓紹介、来賓祝辞(日本山岳・スポーツクライミング協会会長)、秩父宮記念山岳賞表彰・挨拶、新永年会員顕彰・新永年会員代表挨拶、新入会員紹介・新入会員代表挨拶が行われた。

2 記念晩餐会

本館5階 コンコルドボールルームにおいて 18時00分開会。橋本会長挨拶、来賓挨拶(駐日英国大使)、鏡開き、

乾杯(カナダ山岳会会長)、開宴 テーブルでの歓談、海外来賓紹介、支部と支部会員紹介、国内来賓紹介、懇談と移り、20時30分中締め、しばし懇談後、閉会した。

なお、当日は上記以外に、ヨッヘン・ヘムレブ氏が「エベレスト最大の謎 - マロリーとアービン 捜索40年」、重廣恒夫氏が「日本山岳会ヒマラヤ登山の歴史」の演題で講演会が開催された。

<参加者3名>清家順子・橋口三枝子・日高研二



国内外から約五〇〇名の参加で華やかに開催された

〔事務局だより〕

支部行事予定表(1月～3月)

月 日	行事名	備 考
1月8日(木)	314回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
1月10日(土)	定例山行 斟鉢山(宮崎市)	清武町モールナフコ駐車場8:00出発(予定)
1月25日(日)	定例山行 土然が岳(野尻町)	大淀川河川敷ゴルフ場駐車場8:30(予定)
2月5日(木)	315回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
2月7日(土)	小谷登山道・塩鶴登山道整備	小谷登山口8時
2月14日(土)	好燐梅・周辺散策(宮崎市)	清武町モールナフコ駐車場8:00出発(予定)
2月22日(日)	大森岳(綾町)	大淀川河川敷ゴルフ場駐車場7:30(予定)
2月28～3月1日	(土・日)諸塚山山開き	2/28六峰館(泊)
3月5日(木)	316回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
3月15日(日)	双石山・加江田溪谷開き	丸野駐車場
3月29～30(土日)	熊本支部交流会	双石山 宮崎市自然休養村センター泊予定

支部会務報告(9月～12月)

月 日	事業・行事	開催場所	人員	備考
9月11日(木)	310回定例登山研究会(9/4台風順延)	宮崎市中央公民館	18	役員・委員長会(7)
9月13日(土)	定例山行 百貫山	えびの市	12	
9月17(水)	88号支部報発送			A4.10ページ120部
9月20～21(土・日)	九州5支部集会熊本支部主催阿蘇古道山行	阿蘇保全センター	6	5支部総数48名
10月2日(木)	311回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	14	役員・委員長会(6)
10月7日(火)	ウエストン祭打ち合わせ	高千穂町	2	高千穂町役場・観光協会
10月11日(土)	ときめき家族登山釈迦ヶ岳			台風接近中止
10月18日(土)	双石山登山道下草刈り	宮崎市	8	全体30名
10月26～27(日・月)	第38回全国支部懇談会関西支部	大阪ガーデンパレス	2	総数約150名 箕面大滝
10月26日(日)	定例山行 飯盛山	えびの市	6	
10月27日(月)	高体連登山新人大会サポート	双石山	4	
11月3～4(月・火)	宮崎ウエストン祭 4日記念山行祖母山	高千穂町 総数約100名	14	本部1.熊本5.北九州2.東九州8
11月6日(木)	312回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	19	役員・委員長会(6)
11月20日(木)	公民館まつりパネル作成	活動センター	6	
11月23日(日)	山の日(振替)記念事業 家一郷山	徳蘇山系	7(山友6)	総数約50名
11月29～30(土・日)	公民館まつり	宮崎市中央公民館	17	2日間総数520名
12月4日(木)	313回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	13	役員・委員長会(6)
12月6日(土)	清掃登山	双石山周辺	11	総数18名 登山2名
12月6日(土)	年次晩餐会	東京京王プラザ	3	創立120周年記念式典
12月13日(土)	支部晩餐会	つば八	21	

投稿のお願い山行に関するものはもとより、随筆・詩・短歌・俳句など何でも結構ですので皆様の積極的な投稿を何卒よろしく願います。また支部報に関するご意見などありましたら編集委員会へ忌憚なくお寄せください。

カラーページのご案内 配布します本支部報は、経費節減のため白黒印刷ですが、日本山岳会ホームページの宮崎支部を開きますと全カラーで閲覧できますので是非ご覧ください。

編集後記

師走に、傾斜地の自宅の一段下の隣家にまで大きな幹を広げてしまったソシンロウバイを敷地内に納めようと鋸とナタで夫と二人奮闘した。二段下の家から見通されるほど疎(まばら)になった枝に花が咲くか少々心が陰った。二週間程して残った枝の蕾が見る膨らんで来た。正月前に最初の一輪を見た。どの枝で咲くかも楽しみになった。

世界のあちこちでテロや戦争が続き心が痛い。武力行使でなく平和的な解決が望まれます。平和な新年となります様に。(多田)

公益社団法人 日本山岳会宮崎支部報 89号

発行責任者：日高 研二

編集委員：橋口三枝子(編集委員長)、荒武八起、谷口敏子、多田登美子、栗林淳子、蔵屋とよ

事務局：橋口三枝子

〒880-0930 宮崎市花山手東3丁目11-6

Tel, Fax 51-4179, 090-7450-6406

E-mail: hashimie2713@gmail.com

口座：郵貯銀行 記号 17310 番号16269811

名義人：(社)日本山岳会宮崎支部